



川の大きさはどのように比較するのですか？

学校で使っている地図帳を開いて日本を見てみると、ところどころに水色の線で描かれた川を発見することができます。地図帳よりも縮尺が大きい20万分の1の地勢図にはもっと多くの川が描かれており、5万分の1や2万5,000分の1の地形図では数えきれないほどの川があります。このように地図は縮尺によってそのなかに描くことのできる川の数が変わってきます。これら日本の地勢図や地形図を制作・発行している国土地理院では、「川幅」を基準とし、たとえば2万5,000分の1の地形図の場合には、ふだんの水の流れの幅が1.5m以上のものを示すのが原則となっています。

確かに、川を目の前にした時、「大きな川だなあ」と感じるのは、対岸までの距離、つまり川幅が広い場合が多いのですが、川の大きさを表わすのは川幅だけではありません。そもそも川というのは、地上に降った雨や雪を集めて海などに流す天然の水路ですから、その水を集める地域（流域）や川の長さ（流路延長）が大きいほど、集まって流れる水の量（流量）が多くなりますので、川幅も広くなると考えることができます。

このうち川の長さは、同じような広さの流域であっても、流域の形が細長くスマートであれば長くなり、丸い形や扇のような形をしている時には短くなることがあります。川幅も、渓谷であったり、平野や盆地であったり、河口近くであったり、その流れている場所の地形によって、広くなったり、狭くなったり変化しますし、大きさの感じ方も異なってきます。なお、流れている水の量の多さから、川の大きさを実感することができますが、雨や雪の降り方などによっても大きな差があります。こうして見えますと、川の大きさを比較するのに最も適当なものさしは「流域面積」



(流域の広さを示し、通常は km^2 の単位で表わす) といってよさそうです。

ところで、日本で最も流域の大きな川は、やはり日本一の広さをもつ関東平野を流れる利根川であり、その流域面積 $1万6,840\text{km}^2$ は国土面積の 5% 弱を占めています。その次は石狩川 ($1万4,330\text{km}^2$)、信濃川 ($1万1,900\text{km}^2$) です。世界では南米アマゾン川 ($705万\text{km}^2$) が断然トップであり、次いでアフリカのザイール川 ($369万\text{km}^2$)、アメリカのミシシッピ川 ($325万\text{km}^2$) ですが、日本の川の 400 倍前後の面積です。ミシシッピ川の流域は、アメリカ合衆国の国土面積の $1/3$ 以上を占めており、広い大陸の川と、細長い島国の川との違いを表わしているといえましょう。川の長さでは、日本では信濃川 (367km)、利根川 (322km)、石狩川 (268km) の順で流域面積で見た場合と若干順位が入れ替わりますが、世界ではナイル川が $6,650\text{km}$ 、アマゾン川が $6,400\text{km}$ 、長江が $6,300\text{km}$ の順で、やはり日本とは桁が違っています。

ところで、日本の川では「一級河川」、「二級河川」という区分がなされています。電車に乗って鉄橋を通過する時など、一級河川〇〇川などの標識を見かけることがあります。一級というといかにも二級より大きいと感じられますが、近所の小さな川にも一級河川の標識が立てられていることがあります。この一級・二級は、国土保全や国民経済上の重要性を示したものであり、特に重要な川をその支川も含めて水系全体を「一級水系」として定め、一級水系のなかの川は、小さな支川でも一級河川となります。このため川の大小と一級・二級の言葉のイメージとは必ずしも一致していません。